

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【福岡県】

田川市立大浦小学校

1 実践テーマ	【 V 】
2 実施対象者	田川市立大浦小学校 5・6年生児童(2クラス) 62名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名(体育) ② 行事名(大浦小陸上オリンピック大会《校内陸上記録会》) ③ その他() (2) 地域における活動 ① イベント名() ② その他()
4 目標 (ねらい)	○ オリンピアン・トップアスリートによる実技指導と、オリンピック精神の大切さの講話をもとに、これまでの練習の成果を発揮し、自己の記録に挑戦する場として位置づけ、健全な精神と体力の向上を図る。 ○ 田川市小学校陸上記録会へ向けた校内予選会を校内陸上オリンピック大会と位置づけて行い、オリンピック精神に則った選手の選考を行っていく。
5 取組内容	1. オリンピアン・トップアスリートによる実技指導と講話 ○ 日時、場所 ・平成29年9月25日(月) 14:00~16:00 ・福岡県田川市立大浦小学校 運動場 ○ 講師(トップアスリート) ・小嶋 由水:バルセロナ五輪、女子マラソン ・平山 遥:2016年陸上日本選手権 走り高跳び2位 ○ 内容 ・アスリートからの自己紹介・体験談・講話。 ・平山選手による、ウォーミングアップ ・平山選手による、短距離走の指導 (腕の振り方、スタートの仕方) ・平山選手による、ハードリングの指導 (足の上げ方、リズムの取り方) ・平山選手による、高跳びの指導 (足の上げ方、リズムの取り方) ・小嶋選手による、長距離走の走り方指導と実際に走る体験。 (呼吸の仕方、腕の振り方)

5 取組内容



(自己紹介と講話)



(ウォーミングアップ)



(スタートの練習)



(小鴨選手も一緒にスタート練習)



(ハードルの模範試技)



(高跳びの模範試技)



(長距離走の走り方指導)



(小鴨選手と一緒に試走)



(小鴨選手と一緒に試走)



(速い子と一緒に)



(6年生と記念撮影)



(遅い子と一緒に)

5 取組内容

2. 大浦小陸上オリンピック大会《校内陸上記録会》

○ 日時、場所

- ・平成29年9月28日（木）14：10～15：45
- ・福岡県田川市立大浦小学校 運動場

○ 参加児童

- ・5・6年生児童全員

○ 種目・競技方法

- ・短距離走・・・80m直線セパレートコース（2コース）
- ・障害走・・・80m直線セパレートコース（2コース）
高さ60cmハードル5台
第1ハードルまで20m、その後8m間隔
- ・走り幅跳び・・・1回練習、2回の試技、良い方の記録
- ・持久走・・・女子800m、男子1000m
- ・走り高跳び・・・各学年の体育の時間に行う
- ・100m×4の選手は、短距離走の記録を基に後日決定する



（県教育委員会から3名の指導主事が視察される中、競技開始）




（平山選手から教わった、ハードリング）



（小鴨選手から教わった、持久走）



（最後まであきらめずに走り抜いた児童達）

<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ オリンピアン・トップアスリートによる実技指導では、模範試技や上達のポイントが大変分かりやすかったとともに、あこがれを持って視聴することができたことから、児童の意欲が高まり、楽しく集中して取り組むことができた。 ○ 平山選手の講話からは、今なお現役で日本記録やオリンピック出場に向けて頑張っている思いにふれ、トップアスリートを身近に感じ、自分たちも市内小学生陸上記録会に向けて頑張ろうとする意欲につながることができた。 ○ 小嶋選手の講話からは、運動が苦手だった小嶋さんがオリンピック選手になれたことや、「あれこれ考えずに、まずやってみよう、そして失敗したらそこでやり方を考えればいいんだ」という言葉や、今なお市民ランナーとしてマラソンの普及に携わられていることなどから、挑戦することの大切さや、良いと思ったことを続ける大切さ、応援してくれる人の存在の大きさを感ずることができた。 ○ これらのことが、市内小学生陸上記録会の予選会に向かう児童にとって、苦手意識を持った子も含め、挑戦しようとする意欲につながり、上達のポイントを押さえた練習につながり、選手になった友達を支え応援しようとする姿につながった。 ○ 3名の児童が市内小学生陸上記録会で入賞した。子ども本来の能力もあるが、そのうちの一人は33年ぶりの大会新記録につながった。 <div data-bbox="986 987 1353 1254" style="text-align: center;">  </div>
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 市内小学生陸上記録会は今年で49回目となる、特色ある行事である。その予選会に合わせ、陸上のアスリートによる実技指導を行うことで、児童の意欲を喚起し、オリンピック精神で選手を応援し、支え合う取り組みとした。
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ トップアスリートの派遣依頼を学校独自に行うのは大変難しく、仲介業者をお願いすることとなったが、それでも講師決定までに時間がかかり、計画を実施できるかどうかはらはらした。 ○ 業者との打ち合わせが1回で、講師との打ち合わせは当日の1時間前であった。講師の方が遠方で忙しい方であれば、複雑な事業内容はできない。
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ トップアスリートによる実技指導は、子ども達の意欲をかき立て、心揺さぶられる体験となるので、チャンスがいただければ是非継続実施したい。 ○ また、本事業の他にも毎年実施している「ブラインドサッカー体験教室」や、本市が進めているオリンピック・パラリンピックの事前キャンプ地誘致事業等との連携を模索し、本校のオリンピック教育の充実に努めていきたい。